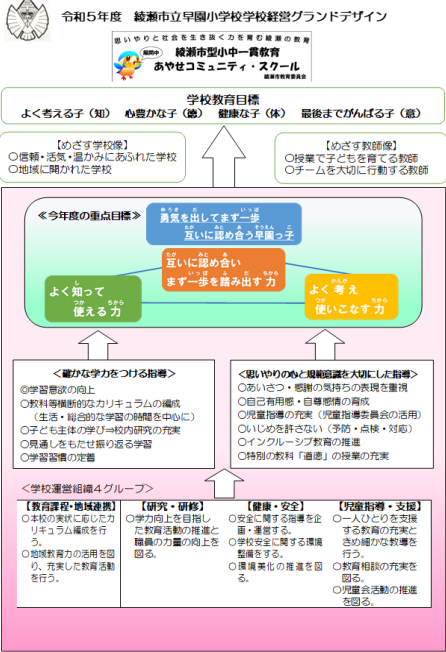


令和 6年度 綾瀬市立 早園小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
学校教育目標	よく考える子(知) 心豊かな子(徳) 健康な子(体) 最後までがんばる子(意)
学校経営方針 (グランドデザイン)	 令和5年度 綾瀬市立早園小学校学校経営グランドデザイン 綾瀬市立早園小学校 あやせコミュニティ・スクール 学校教育目標 よく考える子(知) 心豊かな子(徳) 健康な子(体) 最後までがんばる子(意) 【めざす学校像】 ○信頼・活気・温かみにあふれた学校 ○地域に開かれた学校 【めざす教師像】 ○授業で子どもを育てる教師 ○チームを大切に行動する教師 《今年度の重点目標》 勇気を出してまず一步 互いに認め合う早園っ子 よく知って 使える力 互いに認め合い まず一步を踏み出す力 よく考え 使いこなす力 ＜確かな学力をつける指導＞ ◎学習意欲の向上 ◎教科等横断的なカリキュラムの編成 (生活・総合的な学習の時間を中心に) ◎子ども主体の学び⇒校内研究の充実 ◎見通しをもたせ振り返る学習 ◎学習習慣の定着 ＜思いやりの心と規範意識を大切にした指導＞ ◎あいさつ・感謝の気持ちの表現を重視 ◎自己有用感・自尊感情の育成 ◎児童指導の充実(児童指導委員会の活用) ◎いじめを許さない(予防・点検・対応) ◎インクルーシブ教育の推進 ◎特別の教科「道徳」の授業の充実 ＜学校運営組織4グループ＞ 【教育課程・地域連携】 ◎本校の実状に即したカリキュラム編成を行う。 ◎地域教育力の活用を図り、充実した教育活動を行う。 【研究・研修】 ◎学力向上を目指した教育活動の推進と職員力量の向上を図る。 【健康・安全】 ◎安全に関する指導を企画・運営する。 ◎学校安全に関する環境整備をする。 ◎健康美化の推進を図る。 【児童指導・支援】 ◎一人ひとりを支援する教育の充実ときめ細かな指導を行う。 ◎教育相談の充実を図る。 ◎児童会活動の推進を図る。
今年度の重点目標	令和5年度の重点目標 勇気を出してまず一步 互いに認め合う早園っ子 互いに認め合い まず一步を踏み出す力 よく知って 使える力 よく考えて 使いこなす力

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「よく考える子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	児童、保護者ともに肯定的な回答が多く見られるので、今後も授業づくりの研究を続けていきます。しかし、「あまり思わない」「そう思わない」と感じている保護者が21%いるので、保護者にも学校での取組が伝わる方法を検討します。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。	児童、保護者ともに肯定的な回答が多く見られます。運動会や遠足において、児童の発達段階に応じたためあてを明確に伝え、児童が主体的に取り組んでいくことができるように指導していきます。また、縦割り活動（キラキラタイム）では、児童同士のつながりが深まっている姿が見られるので、今後も計画・実施していきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「心豊かな子」を育てる指導を積極的に行っている。	児童も保護者も「友達と仲良くしている」という肯定的な回答が多く見られます。全ての教育活動を通して思いやりの心と規範意識を大切にした指導を行い、自分を大切にすることはもちろん、相手のことを思いやることのできる「心豊かな子」の育成に全教職員で努めていきます。また、否定的な回答をした児童への配慮や支援も全教職員で継続していきます。
4 児童・生徒指導	児童は友人や先生との学校生活に満足している。	9割弱の児童が学校が楽しいと回答し、学校生活に満足しているとされます。しかし、否定的な回答をした児童が昨年度の6%から11%と5%増えています。今後さらにより注意深く一人ひとりの児童を見守り、学習面・生活面ともに満足できる生活が送れるように、毎日の児童の変化を敏感に感じられるよう全教職員が連携して取り組んでいきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	保護者の肯定的な意見が昨年より増え、「分からない」という回答は昨年より減っています。保護者に学校での取組が少しずつ認知されたように思われます。しかし、約4割の保護者が肯定的に感じていないので、取組が伝わる方法を検討し、実施していきます。
6 保健管理	学校は、「健康な子」を育てる指導を積極的に取り組んでいる。	健康に気をつけていると回答した児童が多くなりました。これは、感染症予防に対する意識が継続しているためと考えられます。今後も継続しながら自分の身体を自らが守ることの大切さを指導し、意識させていこうと思います。また、年3回の「生活リズム大作戦」の取組を継続し、家庭と連携し生活の基盤となる「規則正しい生活習慣」の定着に向けて努めていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	昨年度同様に、教職員は児童に対して積極的に指導をしていることが伺えます。今後も日常の安全指導とともに避難訓練、交通安全教室、不審者待避訓練など安全教育の充実を図ります。また、学校の施設点検・整備については今後も定期的に行う安全点検だけでなく、日頃から全教職員が施設の安全について注意を払い、共通理解のもと児童の安全に努めていきます。
8 支援教育	学校は児童に応じた支援の工夫をしている。	肯定的な意見が多いのですが、保護者の願いや児童支援の方法が多様化することで児童一人ひとりに合わせた指導の難しさがあり、「そう思う」と回答する割合が3割であると考えられます。今後も、児童指導委員会、ケース会議等で必要な支援を検討したり、職員会議後で情報交換の時間を設けたりして組織的な支援を引き続きしていきます。また、校内学習支援者やスクールカウンセラー、外部機関との連携を図りながら、随時ケース会議をもつなど児童や保護者の願いに沿った適切な支援が行えるようにしていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	肯定的な意見が多くあるのは、それぞれの所掌の役割が明確で、業務が進んでいることが読み取れます。学校教育目標の具現化のためカリキュラムマネジメント会議など全教職員で共通理解を図り、学校運営を進めていきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	「学び方を身に付けた子」を目指した授業改善では、一人ひとりの発達段階を踏まえ段階的に習得させることを目指しています。また、他学年と情報交換を行ったり、カリキュラムマネジメント会議を行ったりして今後の指導に生かせるようにしてきました。また、ミニ研修では教員が様々な指導法や実技を体験し、意見交換するなど授業改善を行っています。今後も校内研究の取組を継続・充実させて授業改善に取り組めます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	教職員、保護者から肯定的な意見が多く見られました。しかし、保護者の「あまり思わない」「思わない」「分からない」という意見も少なくありません。昨年度同様、児童の成長のため様々な指導を学校全体で取り組んでいくとともに、保護者により伝わる方法を新たに考えていこうと思います。そして、地域や保護者からの声を真摯に受け止め、教育活動に反映させていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	昨年に引き続き保護者の肯定的な意見が9割となっています。今後も家庭や地域に学校の教育目標、重点目標など目指す児童の姿について積極的に発信していく必要があると考えます。学校行事や地域の活動の場で連携を深め、児童がよりよい教育活動を送れるよう、学校と地域と保護者が同じ方向を向けるように連携を図っていきます。
【学校運営協議会からの意見及び改善策】 ・以前からそうであるが、保護者の中には、学校になかなか意見を伝えづらいと感じている人もいます。そんな時、学校運営協議会が、保護者と学校の橋渡し役になれるとよい。PRも必要。学校は今後も、保護者の困り感や不安に対して丁寧に説明をしていく。 ・教職員の研修への意欲が高まっている。年間を通して自主的に取り組んだ、教職員同士のミニ研修が効果的であった。今後も、引き続き教員の資質向上に努めたい。		